

◀ 1面のつづき

子どもの防犯 親子・地域で話し合い、情報共有を

最新防犯アイテムの使いこなしのポイントってどんなものなのでしょう？
また、最新アイテムを装備する以外の、子どもを守る方法は？



地域社会安全情報マップ。の一例。情報を更新し続けることも大切
(資料提供: GIS総合研究所)

- 知らない人についていかない
- 知らない人の車にのらない
- おおこえを出す
- すぐ逃げる
- しらせる

いかにおすして
パワーアップ!



読者は、どう考えているの？

危険な場所は「公園」「通学路」

リビング新聞が実施した、「子どもの防犯」に関するアンケート(3月25日号で実施。回答数317)を見てみると、公園、通学路が危険箇所と認識されているよう(グラフ参照)。そのため、約半数の人が、「子どもが普段使う道の把握」をするようにしています。

そのほか、「いかにおすし、徹底」(宝塚市・34歳)、「子ども自身が自分を守るすべを覚える」(西宮市・38歳)と、子ども自身の防犯意識を高めることを重視する声も。

一方で、「近隣の住民のつながりを深め、不審人物の発見や子どもの保護など助け合う」(大阪市・40歳)と、地域全体で子どもを守ることが大切という声も多く見られました。私たち、みんなが地域を見直し、「防犯」という意識を忘れず行動することが、子どもを守ることにつながるんですね。

Q1子どもが危険だと思う場所は？

公園	148
学校の通学路	125
塾や習い事への通学路	104
駅周辺	90

Q2子どもを守るために行っていることは？

子供が普段使う道を把握	124
防犯ブザーを持たせている	88
塾や習い事への送り迎え	87
地域の不審者情報を知らせるために登録	68

※上位4位まで。数字は人数
※回答数245人(複数回答)



エディタース・アイ

アンケートでは、「子どもを守るための自治体や警察の取り組みを知っていますか?」との問いに、「いいえ」と答えた人が約6割。子どもの防犯には関心が高いのでは?と思っていたので意外な結果。子どもの年齢などによって、関心度にずいぶん差があるようです。便利なアイテムが増えている今、うまくモノを活用しながら、地域のみんなが意識を高め、防犯力を高めたいですね。(情報企画部 曾我部裕美)

自分で作れる防犯アイテムも
安全マップ作りで危険を意識させる

最近、地域・学校単位の取り組みが増えているのが「地域社会安全マップ」作り。これは、子どもたちが自身が、防犯を意識し、危ない場所などを知ること、防犯力を高めようというものです。GPS機能などを利用

し、学校などでのマップ作りをサポートしている、特定非営利活動法人・GIS総合研究所の代表・川添博史さんは、「残念なことですが、犯罪がなくなることはありません。でも、一人ひとりの心がけて「減犯」はできる。

マップ作りは、そのきっかけの「つ」といいます。また、作るだけでなく、それを見ながら話し合い情報共有することで、マップはより有効なものになるのだそう。

「学校や地域でまともな作りは難しいですが、親子で作る場合は、親子で作るのも手。手順は同

ふだんから使えるよう練習・確認して
最新アイテムを使うコツをまとめたのが、1面の装備ポイントです。携帯電話や防犯ブザーは、「いざ」というときに、うまく操作できなかったり、電池が切れているケ

知るには便利なもの。通路や子どもがよく行く場所での事件や不審者の服装などは、子どもにも伝え、対策法を話し合えば、より情報が生きたものになります。

また、見守り隊などは、腕章をつけているので「目印をきちんと教え、子どももしっかり認識させて。道で出会ったときにあいさつを交わせれば、お互いの顔を覚えられ「守る力」がより強くなります。

警察のホームページ

- 大阪府警察犯罪発生マップ <http://www.map.police.pref.osaka.jp/Public/index.html>
- 兵庫県警察子どもハザードマップ <http://www.police.pref.hyogo.jp/hazmap/index.htm>

GIS総合研究所代表・川添博史さんによる

地域社会安全情報マップの作り方

子どもたちで作る場合は、6~7人のチームに分かれ、チーム内で、危険箇所、不安な場所などの写真を撮影する「写真係」、地図にマークしていく「地図係」、地域の人などに危険箇所などの話を聞く「インタビュー係」など、役割を決めて作るといいですよ。下記の①~⑤を繰り返しながら、最新の情報を盛り込んだ地域社会安全情報マップを作って。

① 地域調査

公共施設や街灯の場所、暗がりなど、街の基本的な情報をチェック。

② 情報収集

犯罪の起こりそうな場所や、警察署や子ども110番の家など安全な場所を、地域の人に話を聞きながら確認。写真も撮っておく。

※大勢で共有する場合、写真撮影時は、個人情報保護の観点からも、人の顔が写らないよう、また個人の家が特定できないよう注意。

③ 情報を地図上に書き込む

地図にチェックした情報を書き込み、写真を張り付ける。

※危険箇所などをマークで表記するのも手。

④ 再度現地で確認、追加・修正する

チーム内で担当を変え、違う子どもの目で再度現地を確認。漏れている情報があれば書き込む。

⑤ 話し合う(コミュニケーションを深める)



子どもの防犯 最新武器

ちゃんと使えている?

子どもが被害者になる悲惨な事件が増える中、続々と登場しているのが子ども向けの防犯用品やサービス。最新のIT技術を活用したものも多く登場しています。そんな子どもを守る最新アイテムとともに、「装備ポイント」をあわせて紹介。上手に使いこなして、子どもの防犯力アップを目指しましょう!

リビング新聞では、「見る目・守る手キャンペーン」として、地域と親子の防犯力を高めるキャンペーンを展開していきます。「子どもの安全」情報は、えるこみにも掲載しています。
アドレス=<http://www.lcomi.ne.jp/anzen>



“持っているだけではダメ”

イマドキの子どもの防犯アイテムは、携帯電話やICチップなど最新技術を活用したものから、地域での見回りなど「人」の目・力を生かしたものでさまざまあります。特に注目されているものの一つが携帯電話。春に登場したNTTドコモのキッズケータイは、全国で2カ月で約12万台が売れたとい

アイテム&サービス 装備POINT

防犯メール配信

不審者発生・検挙情報が携帯に



安まちメール登録は、touroku@info.police.pref.osaka.jpへ空メールを。子どもの被害情報は、約3カ月間で646件配信したそう

各市町村などでも取り組みが行われている、防犯メール配信。登録すると、不審者による子どもへの声かけ事案などの情報が、携帯などにメール配信してもらえます。

大阪府警が今年1月から開始した「安まちメール」には、15万5900人(4月24日現在)が登録。「発生情報ばかりでは不安」との声を受け、犯人の検挙情報の配信もスタート。兵庫県警では「ひょうご防犯ネット」があり、<http://hyogo-bouhannet>で登録できます。

POINT
情報を選び、子どもにも注意を!

見守り隊・こども110番タクシー

地域住民で犯罪・事故を防止

通学路の安全を守るため、保護者や地域住民などが地域を見回り、犯罪・事故を未然に防ぐ「見守り隊」の活動も盛んに。また、犯罪に巻き込まれそうになった子どもをタクシーで保護、通報などを行う「こども110番タクシー」も登場しています。関西では昨年3月から阪急タクシー、今年4月からは、大阪地域タクシー協会などが活動をスタートさせています。



「こども110番タクシー」はステッカーが目印(大阪地域タクシー協会)

POINT
ボランティアの人にはあいさつを

ICチップ

改札通過を保護者にメール

ICチップが組み込まれたカードなどを、読み取り機にかざすと、通過情報を保護者にメールなどで知らせるシステム。自動販売機に読み取りセンサーをつけた実証実験なども行われている。注目のサービスです。すでに、PiTaPaグループが実施している「あんしんグループ」サービスは、PiTaPaカード(写真)で改札を通ると、その情報がメールで配信されます。立命館小学校では、このシステムを活用し、登下校情報を提供しています。



POINT
送り迎え時間の目安にする

POINT
親子で操作の練習を
置き忘れず常に携帯
電池切れに注意!

携帯電話・防犯ブザー

GPS機能で居場所を確認

「子どもたちが安心・安全に暮らしていける社会環境を構築していくために、携帯電話を使って貢献していきたいと考えて」(NTTドコモ関西広報部)と、この春、NTTドコモが発売したのがキッズ向け携帯。以降、各社から同様の商品が相次いで登場しています。GPS(人工衛星を使った測位システム)などを使った、子どもの位置確認機能、防犯ブザー(papipol以外)が付き、付加機能でさらに差別化しています。

また、防犯ブザーにも、位置情報を発信できるタイプが登場。親がPCや携帯電話で、子どもの居場所を確認することができます。



©BANDA
I Z 2004

携帯電話 ※すべてオープン価格

- 1 キッズケータイ FOMA SA800i / NTTドコモ
電源OFF時にメールで位置情報を発信する機能なども。メニューをひらがな表示することも可能
- 2 ジュニアケータイ A5520SA / au
使いすぎ防止機能も充実。オリジナルシールを張れば、携帯をさらにかわいくアレンジできます
- 3 キッズケータイ papipol / バンダイ・ウィルコム
玩具メーカーが開発しただけに、ゲームや占いなどが充実。キャラクターが選べるなど、子どもが持って楽しい携帯



防犯ブザー

どこ・イルカ/ユビキタス
ウィルコムの通信網を使って、子どもの居場所が確認できる。5分ごとに行動履歴の確認もOK。本体9980円。年間使用料が別途必要です

◀ 2面へつづく